



THE Y'S MEN'S CLUB OF SAPPORO
CHARTERED ON NOVEMBER 21, 1955

2017年3月

c/o YMCA
MINAMI 11 NISHI 11
CUO-KU SAPPORO
〒064-0811
011(561)5217

札幌クラブ

The Service Club of YMCA
The International Association of Y's Men's Clubs

B F / ネット Brotherhood Fund, Menette

— 主 題 —

国際会長	「Our future Begins Today」	Joan Wilson (カナダ)
アジア会長	「Respect Y's Movement」	Tung Ming Hsiao (台湾)
東日本区理事	「明日に向かって 今日働こう」	利根川 恵子 (川越)
北海道部部长	「視点をえて見てみよう」	山本 雅之 (十勝)
札幌クラブ会長	「親しくそして語り合う例会を」	宮崎 善昭 (札幌)

札幌クラブ役員

会 長	宮崎 善昭
副会長	伏木 康
書 記	中田 千鶴
会 計	秋葉 聡志
直前会長	宮崎 善昭

今月の聖句

言っておくが、誰でも持っている人は更に与えられるが、
持っていない人は持っているものまで取り上げられる。
ルカによる福音書 19章 26節 宮崎善昭選

YMCA の多文化共生



担当主事 佐藤 雅一

2月、韓国から10名、台湾から17名の青年が北海道YMCAの日本語短期クラスに参加した。

午前中はYMCAで日本語を学び、午後は専門学校生やボランティアリーダーと共に雪祭り・ビール工場・北海道大学の見学に出かけたり、生花・お茶・お琴・手巻き寿司などの日本文化を体験しました。

土日の休みには、思い思いの場所に観光に出かけ、10日間ほどですが北海道の生活を満喫して帰ったようです。

北海道YMCAでは、日本語教育に取り組むに当たりこの事業を「多文化共生」のための活動と位置づけました。日本語の学習を通じて日本と日本人を理解してもらおうと共に、私たち自身も彼らとの生活を通じて共に生きていくことを考えていきたいと思っています。最近ではよく聞かれる言葉となった「多文化共生」ですが、その起源は、1993年に神奈川で開かれた「開発教育国際フォーラム」のようです。

多文化共生の定義と歴史的経緯：

多文化共生という用語の起源は、神奈川県川崎市です。

川崎市は在日韓国・朝鮮人が多く暮らす地域で1970年代から国民健康保険への加入や市営住宅への入居に国籍による制限をなくす活動が行われてきました。

外国人との「共生」を施策の中に位置付け、市民による外国人住民支援の活動も活発に展開される中、1980年代からの新たな文化的背景を持つ外国人の増加で、「多文化」「多民族」の共生を意識するようになり、1993年1月に神奈川県で開催された「開発教育国際フォーラム」では、川崎市桜本地区へのフィールドワークが分科会のひとつとして開催されたが、この催しを案内した新聞記事が、日本の新聞紙上で初めて「多文化共生」というキーワードが掲載されたものといわれています。

また同年末には、同じく川崎市のおおひん地区まちづくり協議会が「緑化、環境整備と多文化共生の街づくり」としてまちづくりのプランを作成し、川崎市へ提出しています。

近年、「多文化共生」は、グローバル化や日本の観光振興の中で語られることが多いように思いますが、本来の「多文化共生」は日本社会の剥き出しの差別に苦しんでいた在日コリアンによる、日本人と「共に生きる」地域作り、という苦しみのなかから絞り出した言葉が「共に生きる(多文化「共生」)」だ、という視点が、いつしか無くなってしまったことが、残念でなりません。少なくとも、YMCAでは、忘れてはならないことだと思っています。

日本語教育を通じて東アジアの平和構築につなげていきたいと考えています。

2017年2月例会	在籍会員	11名	例会出席	6名	メネット	0名	メーキアツプ	1名
出席報告	ゲスト	3名	ビジター	0名	計	9名	出席率	64%

札幌ワイズメンズクラブ 2017年3月例会

日時 2017年3月21日(火) 18:30~20:30

会場 札幌クラッセホテル 2F 会議室
札幌市中央区南1条西7丁目1-2

Tel. 011561-5642

会費 1,200円

プログラム

司会 秋葉 聡志

- ① 開会点鐘 札幌クラブ会長 宮崎 善昭
- ② ワイズソング・ワイズの信条 全員
- ③ 聖句 宮崎 善昭
- ④ 開会挨拶 札幌クラブ会長 宮崎 善昭
- ⑤ 誕生・結婚記念日祝
なし
- ⑥ 卓話

スポーツ夜話 ～ 今は昔 ～



下山 周作氏
コラムニスト
元北海道新聞記者

- ⑦ 諸報告
- ⑧ YMCA報告 担当主事 佐藤 雅一
- ⑨ みんなで歌おう

若き血



- ⑩ 開会挨拶 札幌クラブ会長 宮崎 善昭

何故この聖句を？

宮崎 善昭

何歳になっても、「自己ベストの更新」を考えて行動することができれば、新たな者になれます。そして、新たな自己ベストを他者のために用いたいものです。

札幌ワイズメンズクラブ 2月例会

日時： 2017年2月14日(火) 18:30~20:30

場所： ホテルオークラ札幌

出席者： 秋葉、柴田、佐藤、中田靖、中田千、安田、宮崎

ゲスト： 松井一晃、佐治銀河、河合直人
(北海道 YMCA 汝羊寮寮生)

年度末で業務多忙のための欠席が多かったが、3名の汝羊寮の寮生諸君が来訪。にぎやかな例会となった。

まず河合君(水産学部1年)が汝羊寮の牧歌的な1年の生活の流れをザックリ語り、次に松井君(農学部大学院2年)の夏期ゼミナールの報告。テーマは「生きづらさを解決するために」。難しい話をかなり苦心してかみ砕いて話してくれました。最後は、佐治君(医学部2年)。東北大学溪水寮と定期的に行っている冬ゼミの報告がありました。溪水寮も東北大学 YMCA の学寮です。大学の寮がみなアパート化している中に全人的な触れ合いを目指す学寮が脈々と続いていることを確かめることが出来嬉しく思いました。



写真上： パワーポイントを駆使しての書きセミナー報告。
左から、松井君、河合君、佐治君。



写真上： 前列左から、河合、佐治、松井、安田
後列左から、佐藤、宮崎、伏木、中田靖、中田千

来月の卓話者

下山 周作
コラムニスト

旧関東州大連市出身。慶応大学卒。北海道新聞社入社。札幌本社、東京支社、北海道各地支局長を歴任。スポーツ面を中心に健筆を振るう。東京運動記者クラブ会友、日本スケート連盟スピード名誉審判員。

北海道YMCA創立120年記念集会



クラーク博士の影響を受けた内村鑑三・新渡戸稲造・宮部金吾らによって創立された、北海道YMCAは今年120年を迎えました。

4月1日を創立記念日と定め、創立の思いに立ち返ると共に、ミッションステートメントに示された働きを確認し、YMCAの願いを多くの人に伝え、共に学び合う時として創立記念礼拝・講演会を開催します。

今年は、元北海道YMCA総主事であった海老沢義道さんの娘さんで青年時代チミケップ国際キャンプ場でボランティアリーダーをされた経験を持つ、前埼玉YMCA総主事の栗原道子さんを講師にお招きし、北海道YMCAとの思い出、親子2代で総主事をお務めになったこと、初めての女性総主事になられたこと、神学校に通われていることなど、数々のエピソードから、神様の意思によってYMCAが立てられたこと等をお話しいたします。

時節がらお忙しいとは存じますが、ぜひ多くの方々にご参加頂きたくご案内申し上げます。

日 時 **4月2日** (日) 14:00～17:00

会 場 **かてる2・7** 1070 会議室 (札幌市中央区北2条西7丁目)

プログラム

第1部 記念礼拝 14:00～14:50

第2部 講演会 15:00～17:00

講 師：栗原 道子さん 前埼玉YMCA総主事

参加費無料

*ご参加の方は、下記までご連絡下さい。

申込先 公益財団法人北海道YMCA 〒064-0811 札幌市中央区南11条西11丁目 担当： 岡山、佐藤
Tel. 011-561-5217 Fax. 011-563-0041 E-mail. info@hokkaido-ymca.or.jp

ベトナムの子供たちに教室を！

▼▼▼▼ ベトナムの農村に暮らす子ども達に安心して学べる教室を届けるための
「クラウドファンディング」にご協力ください

目標額 400,000 円 実施期間 3月2日～5月31日

URL: <https://readyfor.jp/projects/ymca-vietnamwork2017> 「readyfor ymca」で検索ください。

今年で22年目を迎えるベトナムボランティアワークの旅で建設する教室の建設資金を集めるためにREADYFORのクラウドファンディングに初めて挑戦します。

90日間で、目標金額 40万円を目指す挑戦となります。

クラウドファンディングというのは、インターネットを通じて、人々に比較的少額の寄付・資金提供を呼びかけるものです。「ALL or NOTHING」という仕組み上、目標額に1円でも到達しないと、0円になってしまい、それまで集まった支援金が受け取れなくなってしまいますのでご協力をお願い致します。

- ▼ 資金の提供をいただきたいのが一番のお願い事です。
- ▼ また、一度HPをご覧いただき、北海道YMCAが行っているベトナムでの教室建設を知って いただくだけでもありがたいと思います。
- ▼ 合わせて、メール・FB・ライン等でお知り合いの方ご紹介いただくと幸いです。

インターネットによる振り込みが原則ですが、銀行振り込みやYMCA受け付けでの振り込みもあります。

連絡・問い合わせ先： 公益財団法人北海道 YMCA 担当： 佐藤雅一 m-satou@hokkaidoymca.org

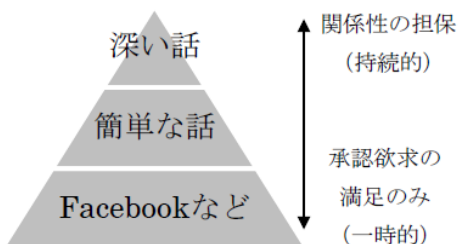
“生きづらさ”を解決するために

夏期ゼミ報告

農学部大学院 2年 松井 一晃
夏期ゼミでは、「生きづらさと向き合う」というテーマのもと、生きづらさを解決するにはどうすればよいかについて考えた。漠然としたテーマに、どの班も苦戦しているようであった。やりたいことが上手いかわない生きづらさや対人関係の生きづらさ、あるいは母子家庭や失業などにより生じる金銭的な生きづらさや疾患等による精神的・身体的な生きづらさなど、ひとりに生きづらさといっても様々な事例があり、解決するには具体的な事例について分析する必要がある。土井先生の講演内でも取り上げられたが、昔は高度成長の流動的な時代であったため個性や才能が重視されていたのに対し、今は低成長な成熟社会であり、ある程度豊かな社会となっているため昔のそれよりも人間関係を重視するような社会になってきている。そのために、現代人は人間関係により満足感や生きづらさを感じていることが多い。そこで我々の班では、班員が共通して感じる「関係性の担保や承認欲求の満足」にかかわる生きづらさについて具体的に考えた。

「関係性の担保や承認欲求の満足」について、

- ① 分の話を聞いてほしい、
- ② FacebookなどのSNSのイ



ネが欲しい・試験の成績で1位をとって褒められたい、などの例が挙げられた。また、①の“話”については2種類あり、1つは深い話（自分でもモヤモヤしていて解決しがたく容易に相談できないような話）、もう1つは簡単な話（あまりモヤモヤしておらず容易に話せる内容。Ex. 軽い愚痴や自慢話など）が挙げられる。Facebookのイイネなどは、承認欲求が満たされるが「関係性の担保」まではいかず、満足感の効果は一時的である。一方で、深い話を聞いてもらえる相手がいれば（関係性が担保されていれば）、承認欲求が満たされるだけでなく生きづらさは大きく軽減し満足感は持続すると考えられる。このように、生きづらさを解決するためには「関係性の担保」すなわち「深い話を聞いてもらえるような身近な存在がいること」が重要であると結論付けられる。

僕のこれまでの人生には、深い話を相談できるような身近な人が困らない程度には居てくれたと感じており、そのような環境に非常に感謝している。今後もそのような身近な人に頼りながらではあるが、生きづらさに潰されないよう頑張っていきたいと思っている。また、自分が施してもらっているのと同じように周りの人を大事にしていきたい。自分がこれまで悩んで乗り越えてきた経験が知恵となって役立っていければと思う。就職して忙しくなってくると大変かもしれないが、できるだけ周囲のSOSを受け止める余裕を持っていたいと思う。これこそが個人レベルで可能な生きづらさの解決法であると思う。



2016年度冬ゼミ報告

医学部 2年 佐治銀河

本年度の冬ゼミは久々に東北大学 YMCA 溪水寮に赴き、東北大学、尚絅大学、北海道大学の学生により行われました。例年行っている NS、冬ゼミでは主に東北と北大がメインで行われていましたが、今回仙台にキャンパスのある、尚絅大学で新しく YMCA ができたことをキッカケとして北海道東北地区の新しいメンバーとして迎えました。

今回行ったプログラムとしては、読書会や発題、聖研と文化体験などという、いつも通りのプログラムが組まれていましたが、その内容は僕にとってかなり例年と違ったものとなった印象があります。それは、一つは東日本大震災からの復興について学ぶことが一つのテーマになっていたこと、また一つは僕自身が運営する立場と同年代になってきたため随所でサポートする必要があったためです。

まず、前者に関して述べようと思います。2011年の震災で大きな被害を受けていた宮城でちょうど6年が経とうとしている今、被災地はどの程度復興しているのか、その爪痕は残っているのかほとんど知らない僕らは冬ゼミの企画として震災を学ぶことを提案しました。とはいえ向こうも大学生。震災当時は中学生であったり東北地方にいなかった者も少なくありません。また被災した人々は観光気分で見学して欲しくはない心情もあるという意見もあります。そこで、今回は震災当時どのように行動すべきなのかを学ぶレクリエーションを行って防衛意識を高めた後で、被災地の見学に留めることとしました。直接の体験として行うことで、今までよりかなり身近に考えることができたと感じています。

後者では、今回のメンバーの中では寮の2年目が中心となって情報の共有を行なったことが印象的でした。お互い寮や学Yの運営のなかで苦悩していることや解決策などを報告し、時には親身になって相談や提案を行いました。閉鎖的になりがちである寮自治において、外部との繋がりが持てる貴重な機会であり有意義に感じています。

実は、僕自身はこの地区イベントで会うメンバーたちは半年に一度集結する兄弟のような仲間達だと思っています。同じように大学生活を送っていて学Yの寮にすみ、日ごろ会うことはできないけれども交流する機会がある。そんな友人達ができることはYMCAの素晴らしい点であると思います。次回以降でも、つながるようなより深い発展と交流を願うばかりです。

北大 YMCA 汝羊寮紹介

水産学部1年 河合直人

はじめまして。汝羊寮一年目の河合直人と申します。本日は皆さんに普段の寮生活について少しでも紹介できればと思い、この記事を書かせていただきます。

私が考える汝羊寮における寮生活の特徴は二つあります。まず一つ目は自治です。学生による自治という少しイメージしづらいとは思いますが基本的な内容としては、食費や庶務費（ガス代、水道代 etc）の計算に始まり、寮の掃除などの基本的なことを含めて自分たちのことは自分たちで決め、実行するという事です。（実際のところ、寮母さんや理事の方々などに頼っている部分も大きいのですが…）。とはいえ、このように学生を主体として寮を運営していくということは汝羊寮ならではの貴重な経験なのかなと感じています。

二つ目は毎週金曜日に行われる寮集会です。寮集会では、自治を行う上で大切な寮の規則や、寮の活動に関する話し合いなどを行っています。毎週金曜日の夕方に集会室に集まって話し合いを行うのは正直面倒だと感じることもありますが、週に一度皆が顔を合わせ自分の意見をしっかりと述べることは誰もが快適な寮生活を作り上げていくうえで非常に大切だと感じています。

最後に、これまで寮生活の特徴を二つ挙げましたが個人的に一番寮に入って良かったと思うのは学年を超えたつながりを持ってたということにあると思います。ご飯を食べながら、風呂に浸かりながら誰かと他愛もない会話をするなど、日々の何気ない瞬間が、やはり寮生活の醍醐味なのだと思います。

北海道大学YMCA汝羊寮とは？

汝羊寮の正式名称は「北海道大学基督教青年会寄宿舎汝羊寮(じょうりょう)」です。北海道大学の学部または大学院に籍を置く男子学生の自治寮です。2013年8月現在寮生の所属学部は文学部、水産学部、法学部、理学部、農学部、工学部と非常に多岐に渡っています。

この寮について最も古くまでさかのぼると120年以上も前になります。当時札幌農学校2期生であった内村鑑三らによって組織された「札幌基督教青年会」が1894年に一時姿を消したものの、1901年に「札幌基督教青年会」から分離という形で「札幌農学校基督教青年会」として再度結成され、これが現在の北海道大学基督教青年会(北大YMCA)の直接的な起源となりました。

汝羊寮はその後1909年に「札幌農学校基督教青年会」の寄宿舎として創設されました。(当時はまだ汝羊寮という名称ではなかったそうです)。ちなみに「汝羊寮」という名前は旧約聖書エゼキエル書34章31節「汝らは我が羊、我が牧場の群れなり」から由来しています。

汝羊寮は自治寮なので、もちろん寮の自治活動を行っていますが、そのほかに学生YMCA活動(以降、学Y)という活動も行っています。学Yでは主に、現在世界で起こっている社会問題を取り上げてディスカッションを行ったり、聖書を通して過去の人々の考えに触れたり、全国に散らばる学生YMCAの仲間と交流したりしています。



YMCAはキリスト教団体なので、聖書など宗教的なものが度々登場します。そのため最近流行りの「カルト」なのでは？と思う方もいるかもしれませんが、しかし私たちは聖書から何かを学び取ろうとはしますが、信仰の強要などは一切ありません(2013年度8月現在全寮生11名中クリスチャンは2名です)。

汝羊寮は誇らしい伝統とYMCAという巨大なバックグラウンドを併せ持ち、この北海道で燦然と輝いています。しかし、筆者にとって汝羊寮とは、どんなに教授にボロボロにされても、星の数ほどの女の子にフラれ続けても、「ただいま」と玄関を開ければそこには一風変わった寮生が笑顔浮かべながら「お帰り！」と温かく迎えてくれる、唯一無二の場所なのです。汝羊寮に入って本当に良かった、！！



(北海道大学YMCA
汝羊寮ホームページより)

左：新渡戸稲造銅像
クラークさんほど有名ではありませんが、
「願わくは我太平洋の橋とならん」と刻まれています。



寮母さん手作りのご飯です！
栄養バランスが良くたくさん食べれます！
寮食は朝夕セットで600円です！

クラブの目的

ワイズメン、ワイズメネットは一個の理想主義者であることを求められています。

それには、何をおいても先ず YMCA に対する奉仕を旨とし、YMCA とのつながりを一層強め深めるための方向づけや活動方針、さらにはそのための具体的なプログラムの策定など、クラブがそれぞれの地にあってこれらを実現し、献身奉仕することを心がけなければなりません。

みなのもものが一つとなんってワイズダムの“きずな”をより固く結び、ともども YMCA 運動へつかえることを願うものです。

1. 個人的にまたクラブとしても、その奉仕活動を通じて YMCA の活動を支援する。
2. ワイズメンにふさわしい他の団体を支援する。
3. 地域社会や国際的な問題に関心を持ち、一党一派に偏らない正義を追求する。
4. 宗教・社会・掲示・国際などの諸問題について会員を啓発し、積極的に参加させる。
5. 健全な交友関係を作り出す。
6. この協会の国際・地域・区の事業を支援する。

ワイズの信条

1. 自分を愛するように、隣人を愛そう。
2. 青少年のために YMCA に尽くそう。
3. 世界的視野をもって、国際親善をはかろう。
4. 義務を果たしてこそ、
権利が生ずることを悟ろう。
5. 会合には出席治一、
社会には奉仕第一を旨としよう。